

東京港視察＋慶応義塾大学（田邊ゼミ）インゼミツアー

2020年2月22日

参加者人数（大阪大ゼミ生 10名（うち東京港視察は9名）＋教員1名）



視察工程

令和2年2月22日(土) 大阪大学 東京港ご見学 行程(案)

< 行 程 >

- 9:50 有明客船ターミナル 待合室 集合
 ↓ 最寄駅: 東京ビッグサイト駅(ゆりかもめ)
 国際展示場駅(りんかい線)
- 10:00 有明客船ターミナル 発
 ↓ **陸上視察(90分)**
- 晴海旅客船ターミナル
 - 東京ゲートブリッジ
 - 中央防波堤外側地区コンテナターミナル (整備中)
 - 新客船ふ頭ターミナル (整備中)
- ※マイクロバス離脱
- 11:30 東京ミナトリエ 着(徒歩移動5分)
 12:00 東京ミナトリエ見学 終了
 現地解散
 最寄駅: テレコムセンター(ゆりかもめ)



インゼミスケジュール

時間	内容	備考
12:45~13:00	開会式	
13:00~15:40	【第1部 論文プレゼン】	
	セッション1: 赤井ゼミプレゼン (聞き手: 田邊先生、田邊ゼミ) × 3 ⇒ 終わり次第合流 セッション2: 田邊ゼミプレゼン (聞き手: 赤井先生、赤井ゼミ) × 4 ※発表時間のときだけ自分のプレゼンセッションに行く	各プレゼン40分 (20分で概要発表+15分質疑応答+5分休憩(予備)) ※2部屋(赤井ゼミ用、田邊ゼミ用)で同時進行で行います
15:40~16:30	【第2部 ゼミ紹介】	
	各プレゼン25分 (15分で概要発表+10分質疑応答) × (赤井ゼミ・田邊ゼミ)	
17:00~19:00 (予定)	【第3部 交流会】 移動	

東京港の視察からの感想：東京湾岸エリア開発の感想（特に、選手村、ユニークな形

の東京ゲートウェイ、東京国際クルーズターミナル、ミナトリエ）

”

1. 選手村についてはオリンピック後も見据えた運用となっており、関連施設等のオリンピック後がしばしば問題となる中で、よい試みであると感じた。東京国際クルーズターミナルについては、多数の観光バスの往来が考えられるが、周辺に企業の倉庫等が併存し、トラック等の往来が激しい中で、他の港で問題になっているような交通渋滞への懸念はないのかといった点が気になった。
2. 不参加によりコメントなし。
3. 東京港周辺を訪れるのが初めてだったので、東京港の地理や歴史を学ぶいい機会となりました。今はオリンピックに向けて最終の準備が急ピッチで進められている様子を見て、東京港が常に変化し続けていることを感じました。また、東京ゲートウェイは関東地方整備局の方々のこだわりが詰まった作品であるということが分かりました。両側にエレベーターが完成したら歩いて渡ってみたいです。
4. オリンピックに関連して、間に合わせるためや費用を抑えるために様々な工事や建築の方法の工夫が行われている様子を説明していただくことができて面白かった。また珍しい青色のガントリークレーンの説明を受け、最初はあれが赤白のガントリークレーンと同じものだとは思っていなかったが、航空事情に合わせて高さを抑えた結果だと知ることができ、同じガントリークレーンがあるイタリアの港も見てみたいと思った。
5. 大阪の湾岸エリアと異なり、タワーマンションや選手村、クルーズターミナル、その他の商業施設などが猛烈な勢いで完成していき、一つの町を形成しているのには圧倒された。また、クルーズターミナルは都のお金で横浜に負けない規模の施設を作っているところをみると、都の財政が比較的豊かであることを実感した。ゲートウェイもいろんな工夫がされていることについて初めて知った。
6. 東京港を訪れたのは、以前クルーズ船に乗った時が初めてで、今回は貸切バスでじっくりと視察させていただいたので貴重な経験となりました。以前の様子と比べられるほど鮮明に憶えているわけではありませんが、東京五輪に向けて着実に開発されている様子が見て取れました。半年後、無事に東京五輪が開催されて開発された地がにぎわうことを切に願うばかりです。
7. 総評として、報道からは分からない東京オリンピック開催に向けた現地の様子や実態の話を伺うことができて有意義な時間だったと思う。特に選手村は初めて実物を見たのだがこれほど豪華なものだとは思わなかった。オリンピック後の不動産利用についてメディアでは悲観

的に報道するものが多く自分もそう思っていたのだが、すでに買い手がついていると聞き、その報道には疑問を感じた。

8. エリア全体の道が広く、海にも面していることもあって、非常に解放的な地域だなと感じた。選手村は統一感のある建物で、想像した以上に数が多くて驚いた。こうやって選手村を自分の目で見ることのできる機会は貴重なため、見ることができ嬉しかった。東京ゲートウェイは、デザイン性に優れていて、ライトアップの際のこだわり（ライトを途中から低いものにするなど）がすごいなと思った。ナンバープレートのデザインに選ばれるなど、一度見たら忘れない独特なデザインは新しい東京湾のシンボルとして確立しつつあるのだということがわかった。クルーズターミナルは初めて見る埋立地の建設方法で建設されていて非常に勉強になった。このクルーズターミナルが完成した際にはぜひ利用して、内部まで見てみたいと思わせてくれるような外装（屋根の形の工夫等）だった。ミナトリエでは、全ての展示室をじっくり見ることはできなかったが、個人的には昔の江戸の町を現代の東京を比較することができたのが一番楽しかった。
9. 特に興味深かったのが、オリンピック選手村のあとに3万人の街ができることと、廃棄物処理場があと50年しか持たないことである。分譲マンションの中に仕切りを入れて、オリンピック選手に住んでもらうとのことであるが、居住空間が狭く不快に感じないか心配である。また、3万人の街が新たにできるとなると、より一層東京一極集中が進みそうである。50年以内に技術も進歩するだろうが、東京都がどのように対応していくのか楽しみである。名古屋では規定の高さ以上に廃棄物を積み上げているそうである。自分が住む大阪ではどのような状況なのか調べようと思う。
10. 東京オリンピック関連施設を間近で視察できたのはとてもわくわくした。オリンピックを半年後に控えて着実に準備が進んでいるんだということを実感できた。選手村の建物はさながらマンションで驚いた。選手村は簡易的な宿泊施設のイメージだったが、それが覆された。ミナトリエの展示ではVRを使ったものなどユニークなものもあり、楽しみながら見て回れた。

慶応大(田邊ゼミ)とのインゼミについての感想(プレゼンについて)

1. 田邊ゼミの論文はどれも一つ目の分析結果をしっかりと考察したうえで、独自の問いを立てて二つ目の分析で検証するという、聞き手からすると考えたり工夫したりしたと感ぜられる論文となっていて、学ぶ点が多かった。また聞き手を惹きつけるプレゼンなど、参考にしたい点が多く、とても有意義な時間だった。
2. コメントなし。
3. 交通の分野のなかで様々なテーマの論文の発表を聞くことができ、初めて知る内容も多く面白かったです。どの論文も、丁寧に現状分析がされており、高度な分析もされていたので見習いたいと思いました。

4. 田邊ゼミのプレゼンはメリハリがついていて面白いと思った。テーマに関する事例などを最初に取り上げ、聴衆にとってイメージが付きやすいようにしているところや、先行研究のレビューの方法などを、赤井ゼミのプレゼンでも参考にしていけたらいいと思った。
5. 分析をみんな勉強されて、詳しいと聞いていたので分析について質問が多く飛ぶかと思っていたが、政策提言や定性分析のところで鋭い質問が多く飛んできて、ハイレベルだと感じた。慶應側のプレゼンは赤井ゼミにはない着眼点を持ったものが多く、いい刺激になった。このまま抜かれないように赤井ゼミ生はもっといろんな視点を持つべきではと思った。
6. 約半年かけて書き上げた論文をもとに、他大学のゼミの方と意見交換をできるのはとても楽しかったです。田邊ゼミの論文はどれも分析に力をいれていて刺激を受けました。来年は4年生となり、論文に主として取り組む立場ではなくなりますが、今回受けた刺激をモチベーションに頑張っていきたいと思います。
7. 田邊ゼミとのインゼミを通して技術を磨き合うとともに、自分たちのゼミの在り方について見直す機会も設けられたと思う。赤井ゼミ・田邊ゼミ共に優秀な学生が多く、いい刺激をもらったと思う。
8. 決勝当日、緊張しすぎてふっこう割班の発表を聞くことができなかったので、今回聞けるのを楽しみにしていたが、自分の発表と被ってしまっていて聞くことができなかったのが非常に残念だった。他班の発表は赤井ゼミとは違って、学生らしい、聴衆の興味を惹きつけるという視点を忘れない発表形態で、とても勉強になった。質問交換も活発に行われて、有意義な時間だった。自分のプレゼンは、初めて読むパートがあり、あまり準備する時間もなかったため、うまく発表することができず、聞き手である田邊ゼミの方々にはしっかりと伝わったか不安だった。
9. 分析のレベルが高く、プレゼンも上手で、感服した。本番発表で聞いて何となくしかわからなかったところが、フランクに質問できたため、理解できたように思う。また、どの班も発表が上手で、引き込まれた。赤井ゼミは淡々とした発表が多いので、緩急をつけたプレゼン方法を見習うべきだと思う。
10. ISの時にも感じたことだが、慶應のプレゼンは聴衆の興味を惹きつける工夫があり聞いてとても楽しかった。自分たちのプレゼンに対しても積極的に質問してくれる人が多くてうれしかったと共に、慶應の人たちの好奇心に驚き、刺激を受けた。

慶應大(田邊ゼミ)のゼミ紹介を受けての感想(ゼミ体制、赤井ゼミと比べて)

1. 田邊ゼミは内部規律がしっかりしている点や、ひとりひとりが学びに対する意欲が高い点など、感心する点が多々あった。中でも分析のインプットを全員がしっかりとっていて、その成果は論文にも表れているように感じたので、赤井ゼミにも取り入れたいと思った。
2. 田邊ゼミの論文テーマは赤井ゼミにはない視点で選ばれたものもあり、非常に面白かった。また、発表方法も聞き手を意識した導入や質問があったので、参考になる部分が多かった。論文大会での、他班の論文の弱点を必死で見つけて突きっていくといった殺伐とした質疑応答

ではなく、お互いの論文執筆での苦労やコツを共有し合うような質問もできる雰囲気でも非常に得るものがあった。

3. 田邊ゼミの活動内容や雰囲気は赤井ゼミと違う部分もありますが、似ている部分も多くあると感じました。赤井ゼミで言うサブゼミのような内容を、田邊ゼミでは3年生の前期でじっくり学ぶ機会があると聞き、1年間のゼミの流れとして良いのではないかと思いました。
4. 学部の全員がゼミに所属できるわけではないため、かなりしっかりした選抜方法が取られていることが印象的だった。また活発なゼミは勉強以外の時間もやはり一緒に過ごすことが多く、遊びも含めたいろいろなイベントと一緒に過ごすものなんだなあと思った。
5. ゼミに入るために1本の論文を書かせて選考するという方法はとても良いと思った。メンバーによって論文へのモチベーションに差が出ることはないと思った。全員が分析について学ぶのはすごくいいことだと思った。また、学びっぱなしでなくレポートを提出させることで定着を図るのもいいと思った。
6. 赤井ゼミよりもはるかに人数が多いことが特徴的だと思いました。説明であったように、全員が何かしらの選考を通過して入ってきているので、全員のモチベーションが高いこともすごく魅力的です。
7. 計量経済学に関して「輪読」といった形で全員で教科書を読み合わせ知識習得をし、統計ソフトについても全員が実習するというように計量経済学について全員で学べる仕組みづくりが整っている点は取り入れてもいいのではないかと思った。また、欠席連絡の規定など一定のルールを設けており、ゼミとしての統制が取れているなどと思った。
8. まず、大学全体のゼミへの取り組み方・制度の違いが一番大きいと感じた。慶應大学はゼミに入ることも当たり前でなく、努力する必要がある、入ってから他ゼミと高め合う機会があり、非常に羨ましいと思った。しっかりと前半に勉強してから論文執筆に携わっていて、赤井ゼミより執筆スタートの時期が遅いにもかかわらず、あれほどのクオリティに仕上げてくるところが本当にすごいと思った。私個人もしっかり勉強して望まないと思われたい相手ではないと非常に危機感を持った。赤井ゼミは大学内での高め合いがあまりできないので、こうやって遠いところで頑張っているゼミの様子を聞くことができたのは本当によかったし、刺激になった。
9. ゼミ全体で計量経済や stata を学べるのはいいなと思った。また、メンター制度を実施しているとのことで、質問しやすい環境であるのは、うらやましい。夏休みごろからテーマ探しをし論文を書くというスケジュールなのに、レベルの高い論文を書いているのはすごい。赤井ゼミも今までのやり方に固執せずに、他の方法を取り入れてもいいなと思った。
10. 正直に言って、ゼミ体制は赤井ゼミより田邊ゼミの方がしっかりしていると感じた。また、計量経済をしっかり勉強してから論文執筆に入るという点も良いと感じた。真似できる点も多いと思ったので、来年度自分たちの体制に積極的に反映していきたい。

慶応大(田邊ゼミ)との交流会で学んだこと。意見交換での感想など。

1. 田邊ゼミは全員の意識が高く、お互いに高めあえる空気があるのは素晴らしいと思った。交流会で仲を深めることができ、是非来年度も田邊ゼミとのインゼミを継続してほしいと感じた。
2. 同じ「政策提言論文の執筆」という活動をしているゼミとの交流の機会がなく、赤井ゼミの活動がどうしても閉鎖的になってしまうと感じていたため、今回田邊ゼミの方のゼミ活動の様子や論文執筆の方法を知ることができ、赤井ゼミにも取り入れるべきところが新たに見えたのではないと思う。こういった交流会が今後も続き、お互いのゼミ活動がより充実したものになることを願っています。
3. 東京の大学生と交流できる機会はあまり多くないので楽しかったです。ゼミの内容や活動が似ているので、共感できることも多くありました。また、ゼミ紹介では聞けないような話もできて盛り上がりました。
4. 赤井ゼミより高度な分析手法を、当たり前に取り入れている様が印象的だった。操作変数法なども毎年話にはあがるが、赤井ゼミでは諦めてしまっている面もある。来年は後輩がそのような手法も検討していけるよう、サポートしていきたいと思った。
5. 他のゼミとの交流は新しい試みだったがうまく行ってよかった。ゼミ紹介や意見交換をすることで田邊ゼミの特異なところや我々も取り入れてみてはいいのではと思えるところもわかった。
6. 最初のインプットの段階にもすごく力を入れており、それが分析の質を担保していることを実感しました。赤井ゼミは田邊ゼミよりも、ゼミの時間が短い分、ゼミの時間外でしっかりとインプットしていく必要があると思いました。
7. 他大学のゼミとの交流は自分を見つめ直すいい機会になったと思う。お互いに論文執筆に全力で打ち込んだ者同士、話をしている楽しかった。今後も両者切磋琢磨していく関係を続けていくことができれば良いと思った。
8. たくさんの田邊ゼミの方、そして田邊先生ともたくさんお話できて楽しかったというのが一番の感想。あまり同じようなことをやっている学生とこうやってじっくりお話する機会もないし、東京の学生と関わることもあまりないので、たくさん勉強になった。慶応大学と大阪大学、赤井ゼミと田邊ゼミとの違いを知るのはおもしろかったし、いいなと思ったことは積極的に取り入れて行きたい。せっかく知り合えたので、今後もインゼミを続けていきたいと思ったし、それ以外にもクルーズと一緒に参加したりして、もっと交流を深めて、お互い刺激しあえる存在でありたいと思った。また、今回の交流を通して、田邊ゼミの皆さんはどう思っているのか、どう感じたのか聞きたい。
9. ゼミのスケジュールがかなり違っており、田邊ゼミ、赤井ゼミそれぞれの良さがある。優秀な人々と交流できて、とても刺激になり、勉強のやる気が沸いた。調整してくださった方々に感謝したい。また来年にも交流したい。他の強豪ゼミともぜひインゼミを開きたい。

10. 田邊ゼミは一班四人で赤井ゼミに比べて少ないが、それぞれが主体的に楽しそうに論文に関わっている印象を受けた。班員の主体性や楽しむ気持ちが増せば、必然的に良い論文に繋がると思う。来年度どんな班にしたいかという自分なりのビジョンが見えた交流会になった。

慶応義塾大学(田邊ゼミ)生からのインゼミへの感想

ふっこう割班代表

ISFJ の討論では聞けないような本音や、大変だったことを聞いて有意義だった。特に印象的だったのは、男女共同参画社会の班が全都道府県に対してヒアリングを行ったという点。手間がかかったデータセットに驚いた。

高齢ドライバー班代表

プレゼンの様子はもちろんのこと、その研究の背景やチームでの苦労話が聞けたのは、共感や気づきがあり良かった。お互いのゼミ紹介や質問のし合いはもっとやりたいくらい興味深かった。飲み会の場では、大きな声では言えない本音も出し合えて、理解が深まった。

橋梁班代表

まずは、ありがとうございました。論文執筆中は書式などを参考にさせてもらって、遠い存在だと思っていましたし、優勝できていいなと妬ましく思うこともありました。そんな赤井ゼミとまさかインゼミができるようとは、ISFJ 前には想像すらできなかったことです。インゼミを通して改めて赤井ゼミの研究水準が高いことを再認識し、大変刺激になったと同時に、ゼミ紹介ではお互いのゼミに良し悪しがあることも知れて田邊ゼミのことを知る良いきっかけにもなったように思います。赤井ゼミにとってもそのような機会であったならば嬉しいです。ゼミ紹介動画やクルーズ船などの課外学習には大変刺激を受けましたし、他方で田邊ゼミの良さも知っていただけたのだと思います。これを機にお互いのゼミの良い点を見習い、両ゼミが来年度には今年を超える活動ができることを心より願っておりますし、そのために精進していくつもりです。

OTA 班代表

全体を通して、色々とお話を聞くことができ楽しかったです。特にゼミ紹介が楽しかったです。貴ゼミの事情が垣間見れ、弊ゼミの運営にも役立てればと思うところもありました。今後ともよろしく願い致します。

4 年

お互い発表を聞いて積極的に質問が出来て良かったと思いました。ただ、事前に資料を共有しておけばしっかりとお互いの論文の内容を理解できたと思います。あと、両ゼミの違いを活かして意見交換が出来ればいいかなと思いました。